

授業科目名： 現代の外交 Contemporary Diplomacy		担当教員名： 信田智人 Tomohito Shinoda	
選択必修： 選択 Elective	単位数： 2	開講学期： 前 Spring	開講言語： 日本語
○授業の到達目標及びテーマ 外交政策の歴史や理論、分析方法、事例研究などを通じて、外交についての基礎的な知識を教授し、この分野での研究の能力をつけることを目的とする。			
○授業の概要 これは、外交政策の歴史や理論、分析手法に関する、大学院レベルの入門から発展段階の授業である。 外交を分析するにあたって、第1部で基礎的な歴史や理論を解説する。そこではリアリズムとリベラリズム、コンストラクティビズムなどの理論が紹介される。第2部においては外交政策の分析手法を教授する。そこでは政策決定アクターやその決定過程、政策決定モデル、政策の実行と行動パターン、メディアと世論の役割などを扱う。第3部においては、外交政策として、安全保障政策、経済外交政策、グローバルイシューが取り上げられる。第4部においては、学生が具体的な事例研究について、授業で習った分析手法を用いて、研究発表する。			
○授業の方法 1) 英語で行われる 2) 受講生は、(下に示す)基本文献を読み、また授業での討議に積極的に参加することを求められる。 3) 授業では、教科書の章立てに沿って、当日のテーマについての講義が行われ、そのあとディスカッションが行われる。 4) 受講生は、3000ワードの期末ペーパーを書かなければならない。また口頭での発表が求められる。			
○授業計画 第1回 授業の紹介、 授業内容の概略、外交についての概説 第2回 歴史的背景 方法論の発展について紹介する。 第3回 リアリズム 伝統的な理論体系として現実主義について議論する。 第4回 リベラリズム 伝統的な理論体系として国際協調主義について議論する。 第5回 コンストラクティビズム アイデンティティ、文化社会などを重視する見解について論じる。 第6回 談話分析、ポスト構造主義 談話分析、ポスト構造主義などの理論を教授する。			

第7回 アクター、構造、外交分析

外交政策決定に参加する政治アクターと政治制度の構造について論じる。

第8回 政策決定過程

合理的アクターモデル、組織モデル、政治過程モデルなどの分析枠組みを解説する。

第9回 政策の実行と行動パターン

実際の政策の実行においてどんな問題が生じるか、主な行動パターンなどを見ていく。

第10回 メディアと世論の役割

近年ますます重要になっているメディアと世論の役割について概説する。

第11回 安全保障政策

外交において最重要視される安全保障政策について考える。

第12回 経済体制

多くの国々が地球規模で取り組むべき問題を説明する

第13回 グローバル課題 学生による事例研究の発表。

グローバル化が進む中、多くの国々が地球規模で取り組むべき問題を説明する

第14回 事例研究 I

学生による事例研究の発表。

第15回 事例研究 II

学生による事例研究の発表。

○テキスト

Steve Smith, Amelia Hadfield and Tim Dunne, *Foreign Policy: Theories, Actors, Cases*, 3rd edition (Oxford Univ. Press, 2016).

○参考書・参考資料等

Christopher Hill, *The Changing Politics of Foreign Policy* (Palgrave, 2003)

○学生に対する評価

- 1) クラス討論への貢献: 20%
- 2) 期末ペーパーの口頭発表 (英語): 20%
- 3) 期末ペーパー (3000 ワード、英語): 60%